

～令和4年産小麦の特徴・次年産に向けて～

- 生育量は、草丈は短い結果となりましたが、莖数は平年より大幅に多くなりました。
- 収量は、千粒重・容積重・子実重ともに平年を上回りました。
- 次年産の栽培に向けて、排水対策を行いましょう。

1 気象経過

(1) 越冬前（10月上旬～12月中旬）

播種時期の10月は定期的に降雨がありました。気温は11月が平年より高く、12月は平年並となりました。

(2) 冬期間（12月下旬～2月下旬）

期間の大半が低温・寡照となりました。平年より積雪が多く、12月下旬から2月中旬まで長期の根雪となりました。

(3) 越冬後（3月上旬～6月下旬まで）

3月から5月は、概ね高温・多照で推移しました。一方で6月上旬は、低温・寡照となり、降水量が多い期間が続きました。

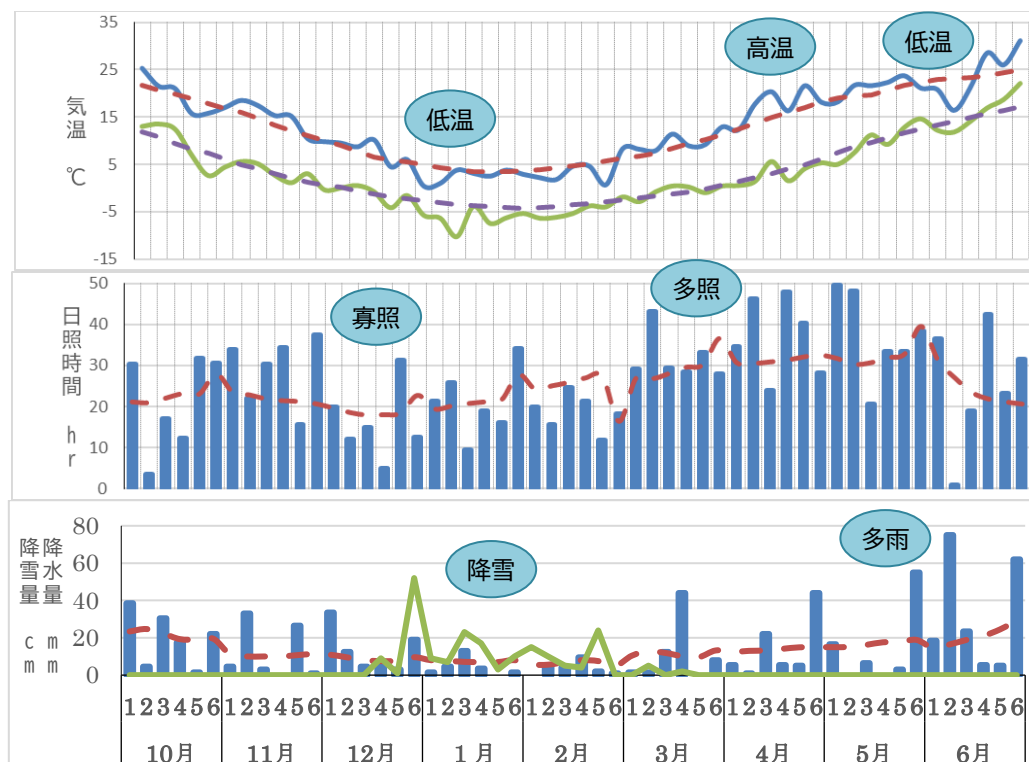


図1 気象経過（アメダス古川）

※実線又は棒グラフが本年値，点線は平年値

## 2 生育概況

### (1) 越冬前～冬期間（10月～2月）

播種時期は、定期的な降雨によりほ場が乾かず、平年より7日遅い播種となりました。生育量は草丈、茎数ともに平年を下回って推移しました。2月には根雪がなくなった影響で鳥害が確認されました。

### (2) 越冬後（3月～6月）

草丈は平年を大きく下回りました。一方で茎数は平年を大きく上回り、4月10日調査では、1519本/㎡で平年比165%となりました。幼穂長は平年並で推移しました。

生育ステージについては、出穂期が1日遅く、成熟期は平年並となりました。また、成熟期調査では、稈長は平年並、穂長は短い、穂数は多い結果となりました。収量調査の結果については、千粒重・容積重・子実重ともに平年を上回りました。

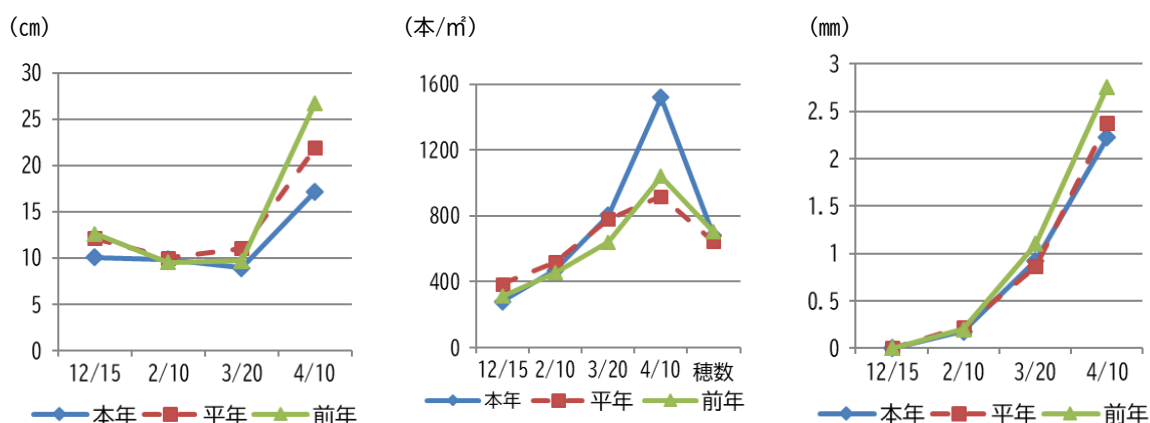


図2 草丈（左）茎数（中）幼穂長（右）の推移  
※2月10日調査は根雪の影響で3月1日に実施した。

表1 生育ステージ

地区名 品種名	区分	播種日	出穂期	成熟期
古川	本年	10/30	5/11	6/24
シラネ	前年差	14日遅い	3日遅い	2日遅い
コムギ	平年差	7日遅い	1日遅い	平年並み

※ 平年差は、過去5か年（平成29年～令和3年産）の平均値との比較。

表2 成熟期・収量調査結果

地区名 品種名	区分	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	千粒重 (g/千粒)	容積重 (g/L)	子実重 (g/㎡)
古川	本年	75.8	6.9	678	38.8	824	595
シラネ	前年比	95%	83%	96%	116%	101%	87%
コムギ	平年比	99%	87%	106%	105%	106%	111%

※ 平年比は、過去5か年（平成29年～令和3年産）の平均値との比較。

### 3 播種前の管理 ～排水対策～

麦は湿害に弱い作物です。明きよと暗きよを適切に施工して、ほ場の排水対策をしっかりと行いましょう。

湿害は土壌中の酸素の欠乏が引き金になり、根の呼吸作用の阻害と土壌の還元化による有害物質の発生によって麦の活力低下につながります。

表3 麦類における生育時期別の湿害

生育時期	湿害の影響
播種直後	発芽不良，不揃い，発芽遅延
出芽後期～分けつ期	根の伸長抑制による浅根，分けつの減少，葉の黄化
節間伸長期～出穂期	根の機能障害及び弱小分けつの枯死，幼穂生長阻害による穂数の減少，穂の縮小化など
出穂期以降	粒の充実不良のための干粒重が軽くなり，収量・品質が低下，稈の伸長抑制

#### ○明きよの施工

- ・ほ場の周辺とほ場内5～10m間隔に1本の割合で、明きよを掘り、ほ場外に排水できるようにしましょう。その時に、明きよは排水溝に必ずつなげましょう。

#### ○補助暗きよ・心土破碎の施工

- ・補助暗きよ（弾丸暗きよ、穿孔暗きよ等）は額縁明きよと本暗きよにつないで排水路を作りましょう。
- ・心土破碎は下層部に形成される耕盤層に亀裂を入れることで、ほ場の透・排水性を向上させる効果があります。サブソイラ等を用いて、地下水位の上昇を防ぎましょう。



写真1 明きよと排水溝をつなぐ



写真2 心土破碎後のほ場

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索してください。